

## ◎染色方法の種類

布に色を染めることを染色と言います。染色するためには、様々な準備や後加工などが伴いますが、ここでは色を染める方法を説明します。

### 染 色

#### 浸染 (しんぜん)

繊維品を染料溶液に浸し、染色する方法です。  
浸染の方法として、先染めと後染めがあります。

染色方法	染色形態	染色の繊維形態による分類
先染め	原料染め	○ばら毛染め〔羊毛のばら毛や化学繊維の短繊維（ステープル）〕 ○トップ染め〔羊毛の前紡工程の繊維束（スライバー）など〕 ○トウ染め〔多数のフィラメントを平行に揃えたロープ状繊維束〕
	糸染め	○かせ（ハンク）染め〔一定の長さに巻いた糸の束〕 ○チーズ染め〔チーズ、コーン、ケーキ等の形に巻いた糸〕
後染め	反染め	○浸染〔織物・編物の状態で無地染め〕 ○捺染〔織物・編物の状態で模様染め〕
	製品染め	○成形パーツの状態、または縫製後に染色

#### 捺染 (なっせん)

布地などに染料や顔料を印捺して模様染する方法です。  
一般にはプリントと呼ばれます。

捺染方式について

捺染は手捺染法と機械捺染法に大別され、さらに、技法からは直接捺染法、防染法、抜染法、防抜染法、型付浸染法などに分けられます。近年コンピュータ技術を駆使した新たな捺染技法として無版プリント（インクジェットプリント）が注目されています。  
その他、特殊捺染として、フロック捺染、スプレー捺染、マルチカラープリント、オパール捺染（抜食加工）、写真捺染、静電捺染などがあり、多彩な絵柄表現を可能にしています。